

我ら、山県市 地域おこし 協力隊！⑨

かとう
加藤慶



自分の持つ技術を生かして、自分の大好きな地域を盛り上げるお手伝いをしたい——。10月に平井地区に移住した、地域おこし協力隊員の加藤慶さんの思いだ。加藤さんは、愛知県尾張旭市の出身で、大学卒業後は東京のIT企業に就職しシステムエンジニアとして働いていた。しかし、生活のなかでなかなか達成感や充実感が得られなかつたという。「歯車のような働き方をして、外の人とのかかわりも多くない仕事を続けるなか、この仕事をしていて良かったと思える機会は少なく、このままいいのかと思い始めたんです。そんななか、偶然テレビで知ったのが地域おこし協力隊という制度です。自分でやりたいことを決めて地域を盛り上げていくことは、やりがいがあつて楽しそうだと思いました」

インターネットなどを使って調べるうちに山県市にたどり着き、すぐに市内の見学に来た加藤さんは、美しい川や里山の景色にほれたという。「最大で3年間活動するを考えたとき、自分のやりたいことより、まずその地域を好きになれるかが大事だと思います。好きな地域のために自分がやれることを考えたい。そう思いながら、好きになつた山県を調べているなかで、魅力的な特産品があるのにインターネットでなかなか買えないことが多くありました。そこで、自分の前職の技術を生かし、インターネットを使った販路拡大で力になれるのではないかと思いつい、応募したんです」

そんな加藤さんは、移住してから精力的に行つていることがある。

「最初の目標は地域の人に自分を知つてもらつて、溶け込むこと。そのためには地域の行事などに積極的に参加したいと思つています」

移住して10日あまりの間に、にんにくの植え付けに参加したり、先輩の地域おこし協力隊員が行つて柿渋染め体験の手伝いをしたりと、平井の人たちと一緒に汗をかいている。

「特産品を知つていいだけではその魅力を伝えきれない。だから、まず地域の人とたくさんかかわつて、その中で産物の魅力や良さなどを学び、魅力をよく知つた上でネット販売につなげたいです」

加藤さんがIT技術を生かして売り出すのは、特産品をとおした産地の魅力であり、そこに住む人も含めた「地域の魅力」そのものだ。

編集後記

「時代は変わる」10月、ボブ・ディラン氏のノーベル文学賞授賞のニュースが報じられた。反戦、えん罪、ビリー・ザ・キッド…。映像とセットで印象に残つてゐる曲が多くあります。この編集後記で数年前の担当が「ワニペース」という漫画に触れたことがあります。その漫画の主要登場人物に重大な事件が起きた回のタイトルが、冒頭に引用した曲の英語の原題でした。漫画を読みながら、頭の中にこの曲が流れていたのを思い出します。もう一度読もうかな。名著には時代は変わつても、変わらぬ力があります。(U)

ちょっと変わつた視点から山県の魅力を発信するサイト「YAMAGATA BASE」。今年度はこのサイトの雰囲気を体感できるバスツアーを行つています。10月9日に行つたツアーや第3弾のコンセプトはオールドカメラで山県を撮ろうというもの。フィルムを詰めて巻き上げ、ゆっくりピントを合わせ、息を止めてシャッターを切る。そして、撮つた写真は現像してからお楽しみ。サクサク撮つてすぐに確認するデジタルカメラとはまた違つたおおらかな撮影は、山県のゆるやかな空気とぴつたりでした。(N)

広報 やまがた

発行 山県市
〒501-2192
岐阜県山県市高木1000-1

編集 企画財政課
TEL 0581-22-6825
Fax 0581-27-2075

URL <http://www.city.yamagata.gifu.jp/>
E-mail info@city.gifu-yamagata.lg.jp



この広報紙は再生紙を使用し、大豆油を含む植物油を使用したインキで印刷されています。

